

令和元年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
1 基本的生活習慣の確立 規範意識を高め、遅刻欠席をしない、挨拶をきちんとするなど基本的生活習慣の確立した生徒を育てる。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 7人以下 C 10人以下 D 11人以上 昨年度 4.6人	A 3.4人	3年生の進路決定後の遅刻を減らすことに努めた結果、昨年度に比べると0.8ポイント下がり、4人以下となった。今後も早朝遅刻指導等を継続し、遅刻者の減少に努めていきたい。
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	欠席者が1日に A 10人未満 B 20人以下 C 30人以下 D 31人以上 昨年度 14.8人	B 12.8人	昨年度に比べると平均2人の減少であるが、依然として安易に欠席をする生徒が少なくなく、本校の重要課題と捉えている。欠席については、進路決定にも影響があることを認識させ、保護者の協力も得ながら数を減らしたい。
	③ 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 91%	A+B 91%	生徒自身は、校則等のルールをしっかりと守っているという結果であるが、これに甘んじることなく、今後も実社会で必要とされる公共マナーについて行事や集会を通して規範意識の向上に努めたい。
	④ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 73%	A+B 83%	本校生徒は、大勢の前では口数が少ない生徒が多いが、少人数や1対1の場面では思っていることを話す傾向にある。このような生徒の状態を正確に把握するには、個人面談が有効と思われるため、年間数回の個人面談の充実が必要不可欠である。
学校関係者評価委員会の評価	・遅刻、欠席については、昨年度よりは減ってきていると思うが、まだまだ多いように思う。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・遅刻、欠席は年々減少しており、この傾向を維持していきたい。また、生徒の健康状態には毎朝気を配っており、日常生活を規則正しく出来る生徒の育成を目指している。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
2 授業改善と3年間を見通した進路指導 落ち着いた学習環境のもと学習意欲と基礎学力の向上を目指し、3年間を見通した進路指導の実践により生徒の進路実現を図る。	① 復習や予習を促し、家庭学習の習慣化を図る。	授業以外の学習時間が「60分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 27%	D 37%	基準を昨年の「90分」から今年は「60分」に変更したため10ポイントアップしたが、37%の生徒しか学習時間60以上を達成できていない。本校の最重要課題である学習時間の確保について、各教科で改善策を検討していきたい。
	② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 71%	B 70%	授業が理解できるとする生徒の割合は昨年と同様であり80%以上を目標にしていきたい。iPadの普及や各教室にプロジェクターが設置され、ICT機器を活用した授業実践の成果が少しずつ現れてきていると思われる。
	③ 3年次生の進学希望者に対し、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第1志望校への進学が実現した生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 昨年度 82%	A 90%	第1志望校への進学が実現できたのは、看護系の志望の生徒を中心に、個別学習など受験準備が整ってきたためであった。今後とも、生徒に対する早期からの学習指導支援体制の確立を進めていきたい。
	④ 3年次生の就職希望者全員の就職内定100%を目指す。	就職内定率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%未満 昨年度100%	B 93%	就職希望者には、インターンシップ・マナー指導・応募前見学・模擬面接等を計画的に行った。来年度も情報収集を含め、計画的に指導を行い社会人としての意識改革に努め、生活態度の向上を図りたい。
	⑤ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通してキャリア教育を推進する。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 73%	B 73%	3年間を見通したキャリア教育を実施し、それをキャリアプラン・金沢学発表会につなげている。今後は、それらの取り組みを自分自身に関係することとして受け止め、受動的・消極的にならず、自ら考え、行動する姿勢を育てていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間は早い段階で自分の目標が見つければ意欲が出るのではないか。 ・進学について国公立に進学しており、頑張っている様子が覗える。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標について、1年次から進路説明会を実施し考えるようになってきているが、今後は具体例等も示していきたい。 ・部活動も勉強も共に頑張れる生徒を各先生方のバックアップのもと育成していきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
3 部活動の充実 全員加入による部活動の一層の活性化を推進し、心豊かな人間性と社会性を身につけた人材を育成する。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	1・2年次生の部加入率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 昨年度 78%	A 82%	入学時に1年次生に対して部活動への加入を指導したので加入率が高くなった。特に、女子生徒の文化部への加入人数が増加した。一方で折角入部した運動部を退部する生徒が多く学校活性化のためにも今後の課題となっている。
	② 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について 昨年度 76% A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援せず指導していない D 殆ど支援せず指導していない	A+B 77%	部活動顧問に対する働き方改革が叫ばれている中、本校教員は技術指導だけでなく人間性の向上等の観点からもよく支援指導している。今後も、生徒が充実した学校生活を送れるように部活動を通して指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・人数が少なく単独チームで出場することが難しい部もあるが、本当に好きならば合同チームで出場しても良いのでこれからも応援をしていきたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・今年度は野球部やサッカー部が合同チームとして出場したが、生徒は意欲もあり練習も充実しており、今後は単独チームでの出場を目指して部員を増やしていきたい。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域交流の促進による学校の活性化 生徒のボランティア活動や学校開放及び情報発信などの地域交流を通して、保護者や地域に信頼され評価され	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、学年だより等による情報発信も行う。	保護者がホームページを定期的に関連する。 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 昨年度 23%	D 30%	昨年度に比べ保護者は若干の上昇にとどまったが、閲覧回数の総数は昨年より年間で約10万回増加した。今後もHPで学校行事等を随時紹介し、各部活動の大会成績や普段の活動状況などをこまめに更新して情報発信に努めたい。
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティア活動など地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している B 充分とはいえないが、おおむね参加している C あまり参加していない D 全く参加していない 昨年度 55%	A+B 60%	昨年度より上昇したが、もっと積極的に取り組んで欲しい。吹奏楽部恒例の湖陽町会夏祭りへの参加、JRC部の24時間テレビでの募金活動、生徒会中心の金沢マラソンの給水ボランティア等に取り組んでいる。学校全体では、周辺地域のボランティア清掃のみであるのが評価の低い原因と思われる。

る学校づくりを行う。	③	図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 100人以上 B 70人以上 C 40人以上 D 40人未満 昨年度101人	A 130人	昨年度から参加人数が29人も増え、図書貸出数も増えた。ホームページで蔵書・書籍検索等ができるよう利便性を高めたことが増加の要因と思われる。今後も地域の読書センターとして愛好家に応える蔵書作りを行っていきたい。
	④	指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満 昨年度 80%	A 85%	過去3年間とも保護者の本校に対する満足度は80%を超えている。学年を追うごとに学校への信頼が高まる傾向にある。今後もメール配信や学年通信を活用し、学校の教育活動について随時情報を提供し連携を深めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページについて保護者の閲覧回数が少ないようである。学校行事や部活動の記録などのニュースをもっと積極的に記載すれば良いのではないか。 ・今年も吹奏楽部に地域の夏まつりへ参加してもらったが、来年以降も継続して欲しい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧回数は昨年度に比べ今年度は10万回増加している。今後はさらにホームページの内容を充実させ学校をアピールしていきたい。 ・吹奏楽部は部員数が以前と比べ少なくなったが、これからも地域の行事に積極的に参加していきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
5 ワークライフバランスを意識した働き方改革に取り組み、時間外勤務短縮に努める。	① 教職員の勤務時間調査を継続するとともに、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	働き方改革を意識し、時間外勤務短縮に努めている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 79%	A+B 80%	ワークライフバランスに努めてもらうため、時間外勤務が多い教員対して、昨年度と比較した月別時間外勤務時間表を配付した。自身の働き方を客観視し、業務改善に取り組んだことが年度末の評価の向上につながったと思われる。今後も更なる改善に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革において、先生方の部活動の指導は生徒にとって大変重要であると思われるが、先生方は年間の休養日を確保しているのか。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の意識はかなり浸透しており、部活動においては事前に年間計画を立案し、1年間を通して定められた休養日を取得するように指導している。 		